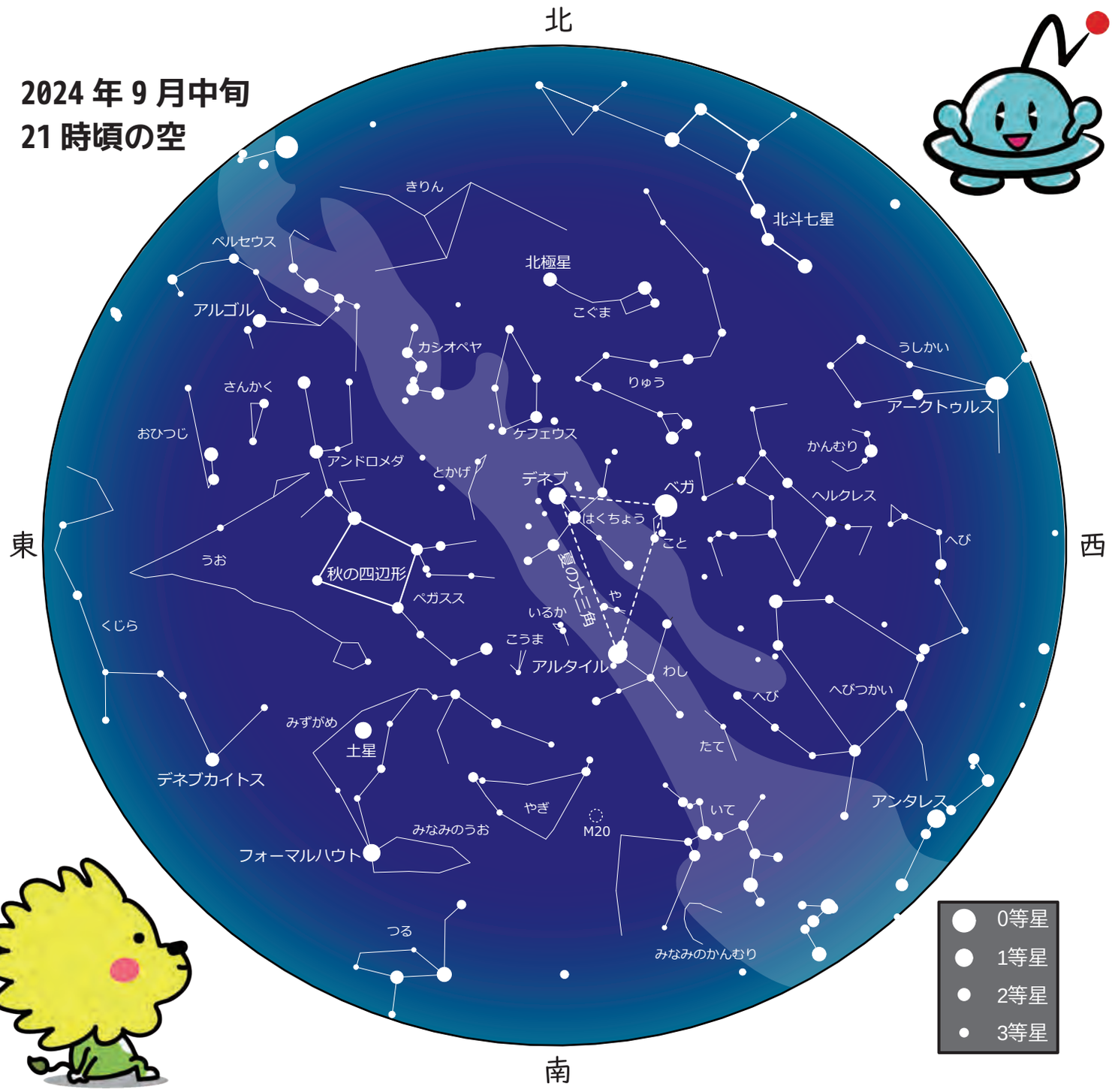
阿南市科学センター

9月の星空案内



そろそろ秋がこちらを覗いていますが、まだまだ暑い日が続いてますね。夜空を見上げてみても、まだ夏は終わらないと言わんばかりに**夏の大三角**が夜空に明るく輝いています。夏の大三角はこと座の**ベガ**（0.0等）、わし座の**アルタイル**（0.8等）、はくちょう座の**デネブ**（1.3等）から構成されるアステリズムです。アステリズムとは、国際天文学連合（IAU）が定めた88星座以外の星の結び方の事を言います。代表的な例は、北の低い空に見えている**北斗七星**。北斗七星は星座ではなく、おおぐま座の一部で、しっぽの部分にあたります。実はすでに秋の代表的なアステリズムが東の空から昇っています。**秋の四辺形**はペガスス座の3つの星、そしてアンドロメダ座のアルフェラッツ（2.0等）から構成されます。夏と秋を代表するアステリズムの共演を夜空でお楽しみください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて　【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター　　電話 0884-42-1600　　http://ananscience.jp/science/

■ 9 月の月の満ち欠けと惑星について

新月
3 日

上弦
11 日

満月
18 日

下弦
25 日

天体観望会で
月が見えるおすすめ日時は？

9/14：全ての回で観察可能

9/21：21 時の回のみ観察可能

水星：初旬の明け方ごく低空に見える。5 日に西方最大離角【0.2 等】

金星：日没後、西の低空で宵の明星として見える。【約 -3.9 等】

火星：後半夜から明け方にかけて東の空で見える。【約 1.8 等】

木星：後半夜から明け方にかけて東の空で見える。【約 -2.5 等】

土星：日没後から一晩中見える。8 日に衝【約 0.6 等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ 9 月初旬の明るさ）。

■ 注目の天文現象

【土星の環の傾きについて】

2025年に土星の一番の特徴である環が全く見えなくなる「環の消失」という現象が起こります。

土星は土星の軌道に対して約27度傾いており、この傾きを同じ方向に保ったまま約30年かけて太陽の周りを一周（公転）します。この一連の動きを地球から見ると、「上側→真横→下側→真横→上側」のように環が傾いて見えます（図1）。

土星の直径が約116000kmなのに対して、環の厚さはわずか数十から数百メートル程度しかありません。たいへん薄いですね。そのため土星を真横から見たとき、環が薄すぎて見えず、まるでなくなってしまったように観測できるのです。

しかし、2025年いつでも観測できるわけではありません。3月23日に環が消失しますが、日中のため観測は厳しいかもしれません。11月25日がベストな観測日和になるでしょう。

環の消失の変化を感じる為には、まず環がある状態の土星を見ておくのがオススメです。今年の9月からは土星の観察の絶好機で、夜間観望会でも大型望遠鏡で案内しています。観望会の回によっては土星が見えない場合もあるので、当館のホームページを参考にしながらぜひ予約をしてみてくださいね。

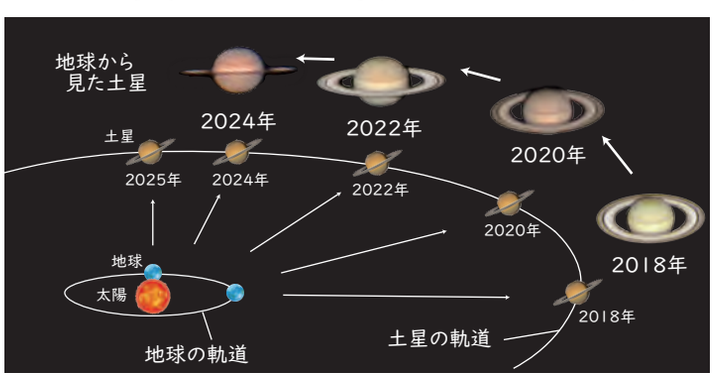


図1 地球からみた土星の位置と環の向き

■ イチオシ天体写真

【はくちょう座のクレセント星雲】

図 2 クレセント星雲 (NGC6888)
(D=25.4cm, F6.3 + L-eXtreme + ASI294MC pro, by K .Imamura)
※この写真は一般財団法人全国科学博物館振興財団の支援を受け撮影しています。

NGC6888 ことクレセント星雲ははくちょう座に位置する天体です。三日月のように欠けた姿が印象的で、クレセント (crescent) は英語で三日月を意味しています。星雲の中央部には約 7 ～ 8 等の星があり、星雲の輝きはこの星が起源になっていると考えられています。中央部の星は、天文学では「**ウォルフ・ライエ星**」という種類の天体で、星（自身）を作っている外層部分のガスを猛烈な勢いで吐き出しています。その吐き出されたガスと、もともと宇宙空間にあったガスが衝突することで、美しい星雲の姿が形成されたと言われています。ウォルフ・ライエ星は太陽よりも何十倍も重たい星の進化の末期段階で、将来的には超新星爆発を起こすと予想されています。